



# July Newsletter

## College for International Cooperation and Development



### *Dear friends and future volunteers!*

今回のニュースレターは、モザンビークのプロジェクトについて、以下の3つを中心にご紹介します。

#### **I. ニヤマタンダのチャイルド・エイドプロジェクト**

CICD2007年9月チームの参加者ジョンによるレポートから、彼の活動内容やプロジェクトの状況をご紹介します。

#### **II. モザンビーク首都マプトで行われた歴史的イベント**

1,750人のTCEフィールド・オフィサー（現地スタッフ）を中心に、3日間行われた集会についての様子をご紹介します。

#### **III. CICDの指導教員オーサーのインタビュー**

先月6月に2週間、モザンビークのプロジェクトを視察した彼女による報告がご覧いただけます。

## **I. モザンビーク／ニヤマタンダのチャイルド・エイド**

1990年に、子ども達を支援するプロジェクトとして、チャイルド・エイドが Humana People to People によって創設されました。UNCHR のレポート「何も特別なことが行われないならば、1億人の子ども達が次の10年間で、防ぐことができる何らかの原因によって死亡するだろう」がきっかけとなり、創設されたプロジェクトです。

このプロジェクトは、あなたが Development Instructor (DI. ボランティアのこと) として、活動することができるプロジェクトの1つです。

今回は、CICDの2007年9月チームに参加し、現在はニヤマタンダでチャイルド・エイドプロジェクトで活動しているカメルーン出身のジョンのレポートを紹介します。彼のレポートから、あなたはこのプロジェクトをより具体的に知ることができるでしょう。



### **—ジョンのレポート—**

#### **○はじめに**

新しい世紀が始まった頃、世界中の約10億人の人々は、読み書きをすることができませんでした。彼らの3分の2は、女性です。1億3000万人以上の子ども達は、学校に通いません。「必要」は、そこにあります。そして「ノウハウ」も同じく、そこにあります。教育に関する国連宣言を成し遂げるために必要なのは、「行動」です。これは、みんなの「関心」です。



モザンビークは、民主主義の強化と一新された経済成長の真っ只中にあります。多くの軍隊は、この発展のために、学校を力強い道具に変える活発な活動を行っています。モザンビーク政府は、国の発展戦略の中心的要素として、基礎教育の普及と改善を行いました。

ADPP（モザンビークのHumana People to Peopleの略称）は、1982年にモザンビークで活動を開始し、40のプロジェクトを運営し始めました。モザンビークのプロジェクトは、以下のような種類があります。

子ども達（特にストリート・チルドレン）のための学校／教員養成学校／職業訓練校／チャイルド・エイド（コミュニティ開発も含む）／HOPEとTCE（HIV/AIDS予防・撲滅活動）／奨学プログラム／農業学校／建築作業／貧困救済／資金調達など。

ADPPニャマタンダは、中央モザンビークのソファラ州にあります。ジンバブエとインド洋のベイラ港をつなぐ国道「ベイラ回路」に沿っています。この地域は、25年間の戦争の影響を最も受けた地域です。戦争の13年後、モザンビークは今だ貧困や低い識字率、いくつかの病気の問題を抱えています。ソファラは、モザンビークにおいてHIV感染率が26%という、最も感染率が高い州です。

### ○ニャマタンダのチャイルド・エイドについて

1977年、私達はチャイルド・エイドプロジェクトを開始し、ラメゴセンターを完成しました。多くの不足が、ソファラ州の基盤にあります。教育、健康と農業のセクターでは、施設と人的資源が不足しています。地方のコミュニティには、地方発展に対処するための弱くて不十分な保健制度と鈍いメカニズムがあります。

チャイルドエイドは、その開始当時からラメゴのコミュニティで重要な役割を演じました。特に家族全員とコミュニティに対して、彼らの知識と経済標準を増やすことによって子供たちの命を改善することを試みることで、大きな影響を得ることを目的としました。



チャイルド・エイドは、持続可能な開発のためにコミュニティに公的な権限を与えるために、また、特に、不利な境遇にある子ども達の生存と成長のための支えとなる環境を作ることを目的としています。

チャイルド・エイドの活動は、以下の10つの政策から構成されています。

- ⓧ 家族経済の強化
- ⓧ 健康と衛生
- ⓧ 幼稚園
- ⓧ 教育／識字率（読み書き能力）の改善と向上
- ⓧ 社会における子ども達の活動。政治的、経済的、社会的、文化的に行う。
- ⓧ 孤児
- ⓧ 地域開発
- ⓧ 環境の変化
- ⓧ 食糧安全と収入創出活動（IGAs）
- ⓧ ボランティア・カウンセリングとテスト(VCT)

現在、ニヤマトンダのチャイルド・エイドでは、48の大人の読み書き能力センターと、44の幼稚園を運営しています。

2つのプログラム（2004年のRITAと2005年のAGSP）の実施のために、ニヤマトンダのチャイルド・エイドは、ソファアラ州の2つの地区ブジィとゴロンゴサにも拡大されました。このプログラムは、政府によって認められています。そして、ボランティアの先生は、国の文教育機関から毎月、小さなお小遣いを受け取ります。

### ○幼稚園と大人の読み書きセンターの重要性と必要性

私は、幼稚園をアピールしています。あなたは、なぜ幼稚園が興味深いのか、知りたいかもしれません。私達が教育を通して未来の世代を育てるまで、現在のどんな発展でも表面上は残ると言います。

私はかつて、このスローガン「賢くなって、教育にYESと言って下さい」を読みました。私は以下の通り、これを言い直します。「発展して、教育にYESと言って下さい」

私は、ここでモザンビークの教育制度の簡潔な歴史と、幼稚園の人口の重要性を伝えます。以下の4つの要因の結果、モザンビークの教育制度は、南部アフリカにおいて最も発展を遂げなかった1つと考えられます。

1. 植民地時代の非常に低い人的資本の投資
2. 大規模な撤退と破壊、1975年の独立後のポルトガルの移民
3. 独立後に続いた17年間の内戦と、それによる教育制度のひどい混乱
4. 1992年の戦争終結以来は適度の学校登録率



ジョンがベリンダにインタビュー



レポートの作成と事務処理

国家の発展のための鍵となる要因は、しばしば「教育」と言うことができます。しかし、モザンビークにおいては、教育の望ましい影響がもたらされませんでした。それが今日、この国の後進性の原因の1つになっていると考えることができます。

FAOとUNICEFの研究によると、農村の小学校の存在における20%の入学増加は、基本的に学校が生徒にとって近いということでした。幼稚園は、小学校の入学増加の可能性をもう20%増加させる手助けをします。なぜならば、生徒達の心に教育を浸透させ、彼らの農村で学校を正しく機能させる手助けをするからです。

ADPPはニヤマトンダの地区だけで、44の幼稚園と48の大人の読み書きセンターを運営しています。ここには、144人の先生と合計2,980人の生徒登録数があります。

私が自分が働く地区で訪問した（50%）これらの学校のほぼ全てには、きちんとした土台がありません。生徒は通常、木の下で授業を受けるか、雨や他の危険の保護がない小屋で授業を受けます。

地元の材料で建設される教室は、地元のコミュニティの人々を動員して建設することが可能です。しかし、屋根などの適度な材料は、コミュニティにそれを購入する余裕がないため、別途に資金が必要となります。



これらの学校の先生の大部分は、小学校を卒業しただけの資格しか持っていません。しかし、例えば他の学校の先生は、これより小さな資格しか持っていません。ADPP は、チャイルド・エイドの活動の下に、これらの先生達に対して、定期的なトレーニングを行うことを試みようとしています。しかし、彼らはいまだに、基礎教育学必要条件に達することができません。だからこそ、これらの先生にとっては、資格を得るトレーニングが必要なのです。なぜならば、彼らがより良いトレーニングを受けた時にだけ、私達はより良い生徒への教育の結果を保証することができるからです。

### ○これらの結果、私達には何が必要なのか？

1. 満員のクラスの問題を解決するために、より多くの先生が必要です。先生はボランティアであって、国の教育機関から、1ヵ月につき 500 メティカル（約 15 ドル）が支給されるだけです。

2. 教材など、学校のほとんど全ての生徒は、ペンや教科書、練習長などの勉強するための材料がありません。

子ども達の成長を良く支えるために、基本的な遊ぶための材料が必要です。

3. 食事の摂取は、非常に必要です。生徒が幼稚園に通うことを希望するならば、少なくとも、少なからずの昼食は提供される必要があります。

また、いくつかの幼稚園には、幼稚園 1 つで約 3 つのコミュニティのために運営されている場合があります。これは、一部の子ども達が、幼稚園に到着するために 1～2 時間必要ということです。また、両親をもつ子ども達が、農場を手伝うために家に帰るのも頻繁に見られる光景です。子ども達は、家族全員が揃うのを待つため、夜の 8 時まで夕食を待つ時があります。

子ども達が家に帰宅する時、家の人々は食事の準備が必要になります。これらの活動を続けるエネルギーを保つために、学校で食事が提供されることが必要なのです。

### ○あなたは何をすることができますか？—私達の提案—

私達は現在、これらの幼稚園と大人の読み書きセンターの将来に備え、寄付金などの資金集めを行っています。物資などの寄付や寄付金は、今回紹介した地域に直接に投資されます。

私達は、寄付を以下の方法で使う予定です。

- ⓧ 幼稚園のための材料の購入
- ⓧ 能力育成—幼稚園の先生のトレーニング  
教育主任は2週間ごとに、評価と計画を立てるために先生に会っています。



幼稚園の授業風景



幼稚園



ジョンが幼稚園に向かっているところ

—モザンビークからのある成功物語—少女代表奨学プログラム（AGSP）—



セシリア

これは、少女代表奨学プログラム（AGSP）についての短い話です。この物語の主人公は、ラメゴで生活している、セシリア・ジョアン・エドゥアルドと呼ばれる、13才の女の子です。彼女は、3年前にこのプログラムに選ばれた幸運な少女でもあります。彼女は、彼女の生涯と同時に、特に彼女の教育、少女代表奨学プログラム（AGSP）の重要性と、その意味について語ります。

セシリアは1995年に生まれました。彼女の出生直後、セシリアは実の父親を失いました。彼女は7の家族の問題を抱えています。彼女には、2人の兄弟と3人の姉妹がいます。彼女が幼い頃、彼女は火災に巻き込まれる事件に遭遇しました。なぜならば、母や他の兄弟姉妹が農場に出掛けている間、彼女は姉と一緒に家に残されたからです。火災は、姉妹が彼女のために食事を用意している時の間違いが原因で発生しました。火災が起きたとき、彼女は眠っていたので、彼女は頭と顔以外の体中のほとんどに火傷を負いました。そして、その火傷の傷が現在も彼女の身体に完全に残っています。

この事件と家族の不安定な状態の結果、セシリアは彼女の仲間やコミュニティに大きく取り残されました。彼女は、この小さなコミュニティで、「触れてはいけない」存在になりました。しかし、彼女はこの厳しい現実の中、彼女の母と兄弟姉妹の支えの下に生き残り、他の子ども達のために奮闘しました。

彼女がADPP（モザンビークで活動するHumana People to Peopleの略称）によって実行され、アメリカ合衆国のアフリカ教育イニシアティブプログラムと関係するAGSPにマドリナとメントラによって選ばれたとき、彼女のチャンスは彼女の価値を証明することになりました。

○ジョンとセシリアによる短いインタビュー

ジョン：こんにちは、セシリア。今日はお元気ですか？

セシリア：ありがとうございます。私はとても元気です。今日は私を訪ねてくれてどうもありがとう。

ジョン：どのようにしてあなたはAGSPを知り、この対象者に選ばれましたか？

セシリア：私はそれについて言うことができません。なぜならば、このコミュニティが子ども達に特権を与え、その中から私が選ばれたということでした。神が私と一緒にいました。そして、私と母にAGSPについての全ての説明がなされました。私も母もそれについては何も知りませんでした。

ジョン：あなたはどれくらいの間、このプログラムを受けていますか？

セシリア：今年で3年目になります。来年には終了するでしょうから、私はすでにそれについて心配しています。

ジョン：何について心配しているのですか？もしよろしければ、教えてください。



セシリアと彼女の母親



**セシリア**：私の夢である先生になることについてです。このプログラムが終了した時、私の教育も終わるでしょう。なぜならば、私の母はとても貧しく、私には他の兄弟姉妹もいるからです。

**ジョン**：プログラムはあなたのためになりましたか？

**セシリア**：私の全ての教育的要求に応じる高度な教育を与えてくれた AGSP は、私に自信と尊厳を戻してくれました。私たちのコミュニティのみんなは、現在、私が考慮されるべき人間であると思っています。私は、私達の小さな文化的グループや裁縫活動、菜園活動を運営しています。現在、私の友人達は私を訪れ、アドバイスを求めます。私はこれらのことについてとても喜びを感じ、誇りに思っています。

**ジョン**：どのようにあなたの人生は変化しましたか？

**セシリア**：私は、現在、以前と違って自分が必要にされていると感じます。それに加えて、最近は衣類や靴、食糧などをプロジェクトから受け取り、私の生活水準を本当に向上させました。そして、私はプログラムが終了した時でも、これを維持する方法を考えています。私は、自分がこのプログラムの間に身につけた才能を活かすことを望んでいます。

**ジョン**：最後に、あなたがプログラムについて何か伝えたいことはありますか？

**セシリア**：私はこの機会を役立てたいです。そして、寄付者達とこのプログラムを実行する ADPP に「ありがとう」と言いたいです。特に、マドリナ婦人とグラシア、メントラとトレーナーに、感謝しています。また、様々なクラブ活動に関係しているインターナショナル・ボランティア (DI のこと) の方々の全てを忘れないこと。私は、これら全ての人々の協力と協同なしでは、現在の私はなかったと思います。最後に、ジョン、私が先生になる夢を覚えておいて下さい。

**ジョン**：今回は、私の質問に答えてくれて、どうもありがとう。あなたの幸運を祈っています。



セシリアと彼女の AGSP トレーナーの ダニエル

## II. HIV/AIDS との戦い—現場・最前線からのニュース—

### OTCE (Total Control of the Epidemic) プロジェクトとは？

TCE (Total Control of the Epidemic) とは、HIV/AIDS 予防・撲滅を目的とするプロジェクトです。このプロジェクトは、「私達人間だけが人々をエイズ (AIDS) から解放することができる」という理念の下に形成されています。

TCE は、定められた活動範囲において 3 年間活動を行います。期間中、TCE のフィールド・オフィサー (現地スタッフ) は、約 2,000 人もの活動範囲の現地の人々を動員し、HIV/AIDS についての情報を伝えて教育し、彼らの性交渉についての考えと行動を変化するための計画をサポートする責任があります。

フィールド・オフィサーは、HIV/AIDS と戦うためのいわば「歩兵」のような役割を果たします。彼らは毎日、村から村まで自転車に乗って 1 件 1 件を訪問し、HIV/AIDS について各個人に助言すると同時に彼らの話にも耳を傾け、彼らが挑戦を克服するのをサポートします。

TCE の活動地域では、人々は HIV 検査を受けて支援グループに加わり、収入創出活動を開始します。そして、HIV に感染するのを防ぎ、更にそれが広がるのを防ぐために、「Risk Reduction Plans (リスク減少計画)」を独自に行います。TCE は、各個人の人生とコミュニティにおいて、HIV 流行をコントロールすることを可能にします。集団として流行している懸念は、全てに影響を及ぼし、全てに関係しています。人々はお互いを支え合い、HIV/AIDS に関する運動を形成するための活動に動員されます。

TCE は 2000 年にジンバブエで開始し、現在までに 800 万人もの人々に対して活動を行いました。今日、国際社会のメンバーの多くが、HIV を克服するためには、TCE のような一対一のアプローチ方法が必要だと認識していることは明確です。

### －TCE フィールド・オフィサー の集会－

チャンガランの TCE フィールド・オフィサーの集会では、そこにいた全ての 1,750 人の TCE 人員にエネルギーを与えました。グループは、部隊と部司令官、特殊部隊、部隊司令官とフィールド・オフィサーで構成されました。

TCE フィールド・オフィサーの集会の目的は、「TCE Movement」として新しいステップをとることです。フィールド・オフィサー達は、集会の間、経験を共有し合い、大きな運動の一部を形成する方法を理解し合って国と大陸の全域で情報を共有しました。彼らは、世界的な「TCE Movement」として、より多くの影響を与えることができる方法や解決を、政府や他の国際的パートナー、全ての人々と一緒に見つけます。



34 台のバスが異なる間隔に到着したとき、ホストはすでに準備ができていました。全ては、テントや屋外の台所を利用したキャンプのように運営されました。これはとても刺激的なことです。アンゴラ、マラウイ、モザンビーク、ザンビアとジンバブエなどのアフリカと、インドと中国などアジアからのフィールド・オフィサー達は、3 日間の集会のために集まり、一緒に活動しました。

ミーティングの初日は、プログラムの紹介によって際立ち、TCE と一緒に活動しました。各集会のパトロールは、彼らがするはずだった仕事を選ばなければなりませんでした。集会のパトロールは、ミーティングが機能するために活動する組織的構成でした。最初の日、マプトの知事が集会を訪れ、スピーチを行いました。そして、HIV/AIDS 問題に直接に取り組む TCE プログラムについてのコメントを行いました。

2 日目と 3 日目は生産日でした。集会のパトロールは、仕事で働く他に、医者に会って彼らの医学質問とその答えを得る機会がありました。医者には、ジンバブエのシバンダ博士と、モザンビークのアンナポーラ博士の 2 人がいました。最後の日は、10km の走力、又は徒歩が行われました。人々は、走るか、歩くかを選ぶことができました。

TCE プログラムは、HIV と HIV 流行率の発生率を減少させ、あらゆる人々を管理しようとする、断固として協調した努力のプログラムです。これは、最後に司令官が述べたメッセージからも明らかでした。

HIV ウイルスが早いペースで動くため、TCE のような断固とした組織的干渉が必要です。司令官とフィールド・オフィサーには、多くのすべきことがあります。そして、彼らはそれを行うことを約束します。





### III. オーサーのインタビュー

オーサーはスウェーデン出身で、CICD の指導教員の 1 人です。彼女はつい先月、2 週間ほどモザンビークに滞在し、プロジェクトと DI の活動や生活の場所を視察しました。

#### 1. 今回の視察の目的は何でしたか？

今回の私の視察の目的は、異なるプロジェクトの DI 達とプロジェクト・リーダー達を訪問し、彼らがどのように活動し、何か解決されるべき問題があるのかを見ることでした。例えば、実際に DI が十分な仕事をこなしているのか、または間違っているのかどうかなども、視察することが目的です。また、CICD がもっとプロジェクトと場所について知り、それがひいては、学校とプロジェクトの間の良いコミュニケーションを得るようになる方法でもあります。

これらのことは、私たちがより DI 達に対して派遣前の準備ができるようにし、そして彼らは、プロジェクトに到着した際に、指定された仕事を得ることができます。なぜならば、プロジェクト・リーダー達は、彼らの能力をより知っているからです。



オーサー（指導教員） / ニャマタンダのセンター

#### 2. モザンビークでは、どの地域を訪問しましたか？

私は、12 日間モザンビークに滞在しました。訪問した場所は、マプト、北カボ・デルガードのペンバとビリビザ、ナカラとベイラ、ニャマタンダのプロジェクトと DI 達です。

#### 3. 貴方はどのようにして旅行しましたか？

私はとても多くの旅行をしました。最初、私は 3 時間半かかってマプトからペンバに飛行機で移動しました。ペンバに到着すると、プロジェクト・リーダーが出迎えてくれ、私達は車でビリビザまで行きました。私がビリビザを去ってペンバに行く途中に、横断へのリフトでニャマタンダに行くバスを見つけました。このバスは満員であって、しかも良い道を通らなかったもので、ニャマタンダへ到着するのに 5 時間かかりました。道はアスファルトでしたが、たくさんくぼみがあるものでした。

私はチャバに寄るために、ナンプラの 50 キロ前でバスを降りました。その後、私はナカラへ行きました。このとき、私が使用したバスは 12 人乗りのワゴン車で、それに約 20 人が乗りました。そして、ナカラに到着するまで約 2 時間かかりました。

ナカラに到着すると、プロジェクトの人々がガソリンスタンドに車で出迎えに来てくれました。それから、私達はそこから 10 分ほど先にある、学校センターまで行きました。私がナカラの訪問が終わったとき、私はナンプラ空港に行くための TTC（教員養成学校プロジェクト）用のリフトを利用することができました。

私はナンプラ空港からベイラに向かい、そこからニャマタンダへ向かうために、2 時間かけてミニバスを利用しました。そして、私はニャマタンダからベイラまでリフトを利用し、そこからマプトへ戻ってイギリスへと帰国しました。







ビリビザの農業学校

#### 4. どのプロジェクトを視察しましたか？

Teacher Training College (教員養成学校) / Vocational School (職業訓練校) / Street Children School (ストリートチルドレンの学校) / Child Aid (チャイルド・エイド) / TCE (HIV/AIDS 予防・撲滅対策) / Farmers Clubs (農民支援・農村開発) です。また、私がプロジェクトを視察した際、25人のDI達にも出会いました。彼らは異なる DRH スクールから来ていますが、1つのプロジェクトには約7~8人のDIが滞在していました。

#### 5. DI とプロジェクトリーダーと話し合った問題について教えてください。

実際にはそれほど多くの問題はなく、これについてはよかったですと思います。

ただ、DIの中には、仕事を与えられるのを待っているだけで、自分から何をしたら良いのかを見つけることが出来ない人がいます。また、誰かが実際に「不適當」なプロジェクトに居るのであれば、尚更です。この「不適當」については、私達がとても多く議論をしている、言語の重要性について挙げる事ができます。モザンビークの公用語はポルトガル語であり、プロジェクト・リーダーや現地スタッフとコミュニケーションを円滑に行うには、ポルトガル語の習得が必須となります。プロジェクト・リーダーやDI達は、派遣前の学校での事前研修期間中における、ポルトガル語習得の重要性について強調しました。



菜園に使用するウォーター・ポンプ・ホース/ビリビザにて

#### 6. 貴方はDI達がプロジェクトで活動している間、どのように連絡をとりあいますか？また、貴方自身はプロジェクト・リーダーと直接、連絡をとっていますか？

カリン (CICDの指導教員であり、指導教員のリーダー) は、常にプロジェクトとアフリカ/インドで活動しているDI達と連絡をとりあっています。私のモザンビーク訪問後、私は自分が特にモザンビークのプロジェクトリーダー達と、もっと多くの連絡を取り合うことができることを自覚しました。なぜならば、私はポルトガル語を流暢に話すことができるからです。

#### 7. 貴方が指導教員として、DI達がプロジェクトで活動するために指導できることは何ですか？

私自身がアンゴラで8年間、プロジェクト・リーダーとして活動していた経験を活かし、DI達に対して特にアフリカの実際的で文化的な状況について語る事ができると考えています。それにより、派遣前のDI達が、アフリカや現地の人々についてより多くの知る機会があるからです。また、英語やポルトガル語の言語についての指導も行うことが可能です。

最後に言えることは、DI達のよくある課題の1つである、人間としての「振る舞い/行為」を変化すること、特に「辛抱すること(忍耐)」の重要性を理解してもらうことに努めることも、大切な指導の1つだと考えています。これは、最も難しいものの1つで、理解してもらうのに時間がかかるものです。



ウォーター・ポンプ/ビリビザにて

### 8. 貴方自身は、今回のモザンビーク訪問から何を学びましたか？

私は、各プロジェクトの異なる状況や、各々の発展レベルについても学びました。

また、私は現在、プロジェクト・リーダーと連絡を取り合っています。CICD とプロジェクト間のコミュニケーションをより簡単にするのに、これはとても大切なことと言えるでしょう。



ナカラのDIの家（寝室）



ウォーター・フィルター

### 9. 貴方自身が、今回のモザンビークを訪問して得た大きな経験は何でしたか？

それを言うのは難しいことです！しかし、私は訪問前に多くの問題に遭遇するだろうと思っていました。実際、そうではなかったことは、良かったことだと思います。そしてまた、多くの前向きな姿勢をもつDI 達に出会ったことは、素晴らしい経験だったということが出来ます。

### 10. 貴方は、私達 CICD として、またプロジェクトを視察するべきだと思いますか？

私は、私達が時々プロジェクトを視察することは、とても重要なことだと考えています。プロジェクトを視察する回数は、どれだけのDI がプロジェクトで活動しているかにもよります。しかし、私達がDI がプロジェクトで活動している間に、その全てのDI 達に出会うことができることは、一番良いことだと思います。

今回の私の経験は、より長い時間をかけてより多くの場所を訪問し、もっと多くのプロジェクトを視察して、プロジェクトとDI 達の日常生活を知ることの必要性を教えてくださいました。

私は、私達がプロジェクトの進展について理解することは、とても重要なことだと考えています。そうすることによって、私達はDI 達に対して、プロジェクトの現状について去年や以前のものではない、最新の情報を与えることができます。

私自身も、DI 達が私を快く出迎えてくれ、彼ら自身が何をしているのかについて語ってくれました。また、プロジェクト・リーダー達も私を出迎え、DI 達をどのように指導していくかについての意見を交換することができました。

これらを踏まえ、私達が時々プロジェクトを視察することは、とても大切なことと言えるでしょう。

ナカラのDIの家（台所）



夕食会/ニャマタンダのDIの家にて



**College for International Co-operation and Development (CICD)**

**@ Winestead Hall, Patrington  
Hull, HU12 0NP England**

**Email: [cicd05@yahoo.co.jp](mailto:cicd05@yahoo.co.jp)**

**Contact Details:**

**Tel: +44 (0)7813 854 298**

**+44 (0)1964 631 826**

**Fax: +44 (0)1964 631 695**

**Websites:**

**[www.cicdvolunteer-japan.org.uk](http://www.cicdvolunteer-japan.org.uk)**